

□ 平時の対策

国立感染症研究所 感染症学センター 医療機関での麻疹対応ガイドライン第7版

掲載
ページ

対応内容		
1. 感受性者対策		
☐	1歳以上で受けた麻疹含有ワクチン接種歴、麻疹罹患歴、抗体価の確認（※記録に基づく）	4
☐	麻疹含有ワクチンの接種推奨・実施 （対象：1歳以上で2回の予防接種歴が記録によって確認できない者、検査診断された罹患歴がない者、接種歴・罹患歴が不明で抗体陰性あるいは低抗体価の者 注意点は本文を参照）	4-5
☐	1歳以上で受けた麻疹含有ワクチンの2回接種の記録の保管（本人・医療機関）	4-5
☐	抗体価測定 EIA法 または PA法または中和法（※対象者、注意点は本文を参照）	6
☐		
☐		
2. 発生時の備え		
☐	受付事務部門、外来部門（および院内全体）へのトリアージに関する教育・周知	6-7
☐	発熱、発疹症状を認める受診者への申告依頼の掲示	7
☐	受付時 麻疹を疑う症状の患者来院時に速やかに別室へ誘導できる体制・動線の確立（休日・夜間を含む）	7
☐	発生時の施設長、ICT、感染対策委員会等、意思決定機関への伝達・対応方針決定方法の明確化	8
☐	発生時の職員全員への周知連絡経路の具体的確認・確立	8
☐		
☐		
☐		
3. 感染対策マニュアルの充実		
☐	外来トリアージの方法・動線についての具体的記載	7
☐	麻疹患者との接触者に説明・確認する内容、方法、リストアップのためのテンプレートの準備	7-8
☐	有事の伝達・対応方針決定方法の明記	8
☐		

□ 発生時の対策

国立感染症研究所 感染症学センター 医療機関での麻疹対応ガイドライン第7版

対象	対応内容	掲載ページ
1. 患者対応	・原則として、麻疹に対する免疫を保有する者が対応にあたる ・症状・所見・予防接種歴・行動歴等から麻疹が疑われる場合、検査で否定されるまでは麻疹と考えて対応を行う	
麻疹患者	☐ 空気感染対策：個室管理(可能な場合は陰圧室)・他者と接触しない誘導経路を考慮 対応は麻疹に対する免疫を保有する者に限定 + その他の飛沫感染をきたす感染症も想定してサージカルマスクを着用+ 標準予防策	9
	☐ (職員・実習生の場合) 即座に勤務・実習の中止	10
	☐ 麻疹患者発生届を保健所に提出	11
	☐ PCR検査検体採取・依頼 (EDTA血・咽頭ぬぐい液※・尿) ※細菌培養用の容器は不可	12-13
	☐ 血清学的検査 (発疹出現後4～28日の血清IgM抗体価、急性期と回復期のペア血清(血清IgG抗体価)、血清保存)、その他	11-12
	☐ 行動歴の詳細な聴取 (発症1～2週間前(4週間以内)) ※感染源調査のため	8-9
	☐ 行動歴の詳細な聴取 (発症1日前～解熱後3日過ぎるまで) ※接触者調査のため	8-9
	☐ 通院加療の場合、感染可能期間内の注意点伝達	10
	☐ 解熱日の確認	10
	☐	
	☐	
感染管理	☐ 麻疹疑い患者受診時の対応フロー、誘導動線の確認・関係各所への再周知 (休日・夜間含む)	9
	☐ 外来受診者、入院患者、面会者への情報提供・有症状時の申し出の依頼・注意喚起 (ポスター、掲示板等)	9
	☐	
	☐	
2. 接触者対応	・麻疹患者が感染可能期間中に、同一時間帯・同一フロアに滞在した者は全て接触者として対応 ・修飾麻疹患者については、飛沫感染、接触感染対策とする ・行動歴に応じて、検査・他科外来受診、薬局、売店なども含まれる	
	☐ 接触者のリストアップ	13-14
	☐ 接触者への電話連絡・問い合わせ対応のための資料準備 (保健所と連携)	14-15
外来患者・同行者	☐ 接触者への連絡 (※電話・直接連絡が望ましい)	14-15
入院患者・面会者	☐ 1歳以上で受けた麻疹含有ワクチン接種歴(0歳での接種は接種回数に含めない)・検査による罹患歴調査 (感受性者の把握)	15
患者家族 職員 (ボランティア、委託職員も含む) 実習生	☐ 抗体価測定 EIA法 または PA法または中和法 (※対象者、注意点は文中を参照)	6, 15
	☐ 接触した感受性者に対する緊急ワクチン接種 (接触から72時間以内、前後に十分に説明を行う) ※ 以下に特に注意 ・接種不适当者 ・妊娠出産年齢の女性は接種後2か月は妊娠を避けることの周知 ・緊急接種後も健康観察は継続 ※曝露から72時間以上経過した場合でも、間に合わず発症する可能性があることを十分に説明した上で、感染を免れていた可能性を考えて、3次感染予防として、接種を積極的に検討	14-15
	☐ 人免疫グロブリン適応者の検討 (接触から6日以内・観察期間延長28日まで)	14-15
	☐ 全接触者への健康観察の依頼 (接触から5～21日目まで) ※毎朝(外出前)の検温、および医療機関受診時の注意、有症状時の外出控えを強調	16-17
	☐ 健康観察中の接触者のフォロー (欠勤者の把握、健康観察実施状況)	16-17
	☐ 最終患者の発生から4週間は麻疹が疑われる患者がいないか厳重に観察	18
	☐	
	☐	
3. 情報共有・連絡		
院内	☐ 施設長、および院内の意思決定機関への速やかな情報共有・対応体制検討 (迅速な臨時院内感染対策委員会開催 など)	17
	☐ 職員(事務職員、委託職員、ボランティアを含む)・実習生への麻疹患者発生と対応の迅速な周知	17
	☐ 緊急予防接種の準備(ワクチン・接種医師・接種場所の確保、説明文書、費用負担元検討など)	16
	☐ 麻疹疑い患者受診時の対応フロー、誘導動線の確認・関係各所への再周知 (休日・夜間含む)	9
	☐ 外来受診者、入院患者、面会者への情報提供・有症状時の申し出の依頼・注意喚起 (ポスター、掲示板等)	9
	☐	
	☐	
保健所	☐ 麻疹患者発生報告・ウイルス学的検査のための検体提出 (前述)	10-13
	☐ 接触者対応状況 (患者行動歴、接触者数、感受性のある接触者数、連絡状況、対応内容 等)	17
	☐ 接触者調査・対応方法に関する相談 (接触者定義の確認、接触者への説明内容の統一)	18
	☐ 緊急接種用のワクチン確保に関する相談	17
	☐	
地域	☐ 近隣医療機関、薬局、地域医師会等との情報共有	18
	☐ 地域住民への情報提供、公表の検討	18
	☐	